

2020年度 南山大学 平子ゼミ 卒業論文研究の事例紹介

平子達也（南山大学）

Covid-19の影響下における方言研究のあり方を模索するWS 第二弾

2021年3月26日（金） オンライン

目次

- ・ 平子ゼミの紹介
- ・ 2020年度の平子ゼミの活動の概要
- ・ 事例紹介
 - ・ 全体的な話
 - ・ 擬似対面調査の例：秋田方言の連体修飾
 - ・ アンケート調査の例：三重北部方言の否定辞
- ・ まとめ

平子ゼミの紹介 (1)

概要

- ・ 指導教員：平子達也
- ・ 所属学生：4年生9名, 3年生1名
- ・ 研究テーマ：日本語の歴史と方言の研究

平子ゼミの紹介（2）

卒論指導の流れ

- ・ クォーター（4期）制
 - ・ ゼミ（演習）は3年次・4年次（学年別）
 - ・ Q1, Q3, Q4のみ開講（夏休み前のQ2にはゼミがない）
- ・ 3年次秋学期（Q3, 4）以降に，卒論研究に向けての発表（各Qに2回発表）
 - ・ 先行研究の整理，予備調査，研究テーマの設定
 - ・ 4年次の夏休みに本格的な調査研究をすることを目指す

2020年度の平子ゼミ (1)

春休み～春学期

- ・ COVID-19の感染拡大により**現地調査は不可能に**
 - ・ 3月に予定していた予備調査等をキャンセル
- ・ 春休み中にオンラインでミーティング（全体・個別）
 - ・ 調査地・調査者，図書館（資料）へのアクセスがしにくくなることへの対策
 - ・ 研究倫理審査の申請（オンライン調査に対応した「説明書」「同意書」の準備）
- ・ 夏休み前までに1度発表
 - ・ COVID-19の影響を踏まえた上での研究計画の再考・変更

2020年度の平子ゼミ (2)

Q2 (夏休み前) 以降

- ・ 「**仮説とその検証**」を軸にした研究を意識
 - ・ COVID-19の影響による「質の低下」はやむを得ない
 - ・ **COVID-19の影響を受けない部分での充実**を目指す
- ・ 「調査不足」の部分が残るだろうことは「仕方ない」
 - ・ 本人の「努力」ではどうしようもない部分があったのも確か

事例紹介

2020年度の卒論テーマ一覧（平子の個人HPで全て公開済）

- ・ 赤尾莉央 「接続助詞ノニの情意的意味についての史的考察」
- ・ 北 佳大 「三重県北中部における東京方言タイプのアクセント」
- ・ 三輪凜太郎 「上代特殊仮名遣いイ列・エ列音の頻度と後代における仮名の字母」
- ・ 奥田 恵 「三重県北部方言における否定辞について」
- ・ 柴田大雅 「丹後方言におけるワ行五段活用動詞の音便」
- ・ 鈴木千遥 「名護市我部祖河方言の名詞アクセント」
- ・ 山田玲央奈 「江戸時代後期の洒落本における丁寧の助動詞「マス」の命令形」
- ・ 田村咲季奈 「秋田県旧増田町方言における連体修飾構造」
- ・ 葛 冬瀛 「上海語と日本語の音声的近似性について」

事例紹介

日本語史研究：コーパス＋根性引き

- ・ 赤尾莉央 「接続助詞ノニの情意的意味についての史的考察」
- ・ 三輪凜太郎 「上代特殊仮名遣いイ列・エ列音の頻度と後代における仮名の字母」
- ・ 山田玲央奈 「江戸時代後期の洒落本における丁寧の助動詞「マス」の命令形」
 - ・ **資料調査（予備調査）をしながら仮説を改めていく作業の繰り返し**

事例紹介

方言研究：Zoomを使った擬似対面調査

- ・ 鈴木千遥 「名護市我部祖河方言の名詞アクセント」
- ・ 田村咲季奈 「秋田県旧増田町方言における連体修飾構造」
 - ・ 調査前に仮説を設定した上で、調査中に仮説を検証したら、また新たに仮説を設定し・・・の繰り返し

事例紹介

方言研究：google formsを使ったアンケート

- ・ 奥田 恵 「三重県北部方言における否定辞について」
 - ・ 柴田大雅 「丹後方言におけるワ行五段活用動詞の音便」
 - ・ 北 佳大 「三重県北中部における東京方言タイプのアクセント」
 - ・ 葛 冬瀛 「上海語と日本語の音声的近似性について」
- ・ **アンケート実施前に検証すべき仮説を明確にし，予測される結果とそこから導き出される結論まで予め考える**

事例紹介

2020年度の卒論テーマ一覧（平子の個人HPで全て公開済）

- ・ 赤尾莉央 「接続助詞ノニの情意的意味についての史的考察」
- ・ 北 佳大 「三重県北中部における東京方言タイプのアクセント」
- ・ 三輪凜太郎 「上代特殊仮名遣いイ列・エ列音の頻度と後代における仮名の字母」
- ・ 奥田 恵 「三重県北部方言における否定辞について」
- ・ 柴田大雅 「丹後方言におけるワ行五段活用動詞の音便」
- ・ 鈴木千遥 「名護市我部祖河方言の名詞アクセント」（→午後の発表）
- ・ 山田玲央奈 「江戸時代後期の洒落本における丁寧の助動詞「マス」の命令形」
- ・ 田村咲季奈 「秋田県旧増田町方言における連体修飾構造」
- ・ 葛 冬瀛 「上海語と日本語の音声的近似性について」

事例紹介（1） 擬似対面調査による研究

田村咲季奈 「秋田県旧増田町方言における連体修飾構造」

- ・ 日高水穂（2000） 「秋田方言の文法」 （『秋田のことば』所収 p.97）に概略の記述のある **属格助詞を伴わず修飾関係を表す「オレクルマ」「私の車」** のような表現が対象
- ・ どのような場合に属格助詞を伴わないで良いのかを，主に**修飾名詞の有生性の観点**から調査
- ・ 当該の形式が，**属格助詞「ガ」を伴う「オレガクルマ」**のような表現に遡る可能性を指摘

事例紹介 (1) 擬似対面調査による研究

田村咲季奈 「秋田県旧増田町方言における連体修飾構造」

- ・ 日高水穂 (2000) 「秋田方言の文法」
 (『秋田のことば』所収 p.97) に概略
 の記述のある **属格助詞を伴わず修飾関
 係を表す「オレクルマ」「私の車」** のよ
 うな表現が対象



『方言文法全国地図』第13図 「おれの (手拭)」

13

事例紹介 (1) 擬似対面調査による研究

田村咲季奈 「秋田県旧増田町方言における連体修飾構造」

- どのような場合に属格助詞を伴わないで良いのかを、主に**修飾名詞の有生性の観点**から調査
- 日高(2000: 96) : 「**人称代名詞が修飾名詞の場合に**, 「ノ」が省略可能」
 - 東北諸方言で助詞がないと言えば「主語」 (日高 2000: 89も参照)
 - 「主語」と言えば「(主格の) 「ガ」」
 - 「ガ」と「ノ」の交替? ← 下地理則氏による助言

N1\N2	車 (クルマ)	家 (エ)	お金 (ジェンコ)	顔 (ツラ・チラ)	手(テ)	田(タ)	畑 (ハダケ)	山 (ヤマ)	母 (カアサン)
私(オラ・オラ ア・オレ・ワ)	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ	ノ/Ø	ノ	ノ/Ø
私たち (オラダ・ワダ)	—	ノ/Ø	—	—	—	—	—	—	—
あなた[友人] (オメ・オメエ)	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ	ノ	ノ	ノ
あいつ (アレ・アレエ)	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ	ノ	ノ	ノ
チアキちゃん/ ナオコ[友人]	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
父 (オド・トサン)	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
弟(シャデエ)	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
猿(サル)	ノ	ノ	—	ノ	—	—	—	—	—
誰 (ダレ・ダレエ)	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ/Ø	ノ	ノ	ノ

事例紹介 (2) アンケート調査による研究

奥田恵 「三重県北部方言における否定辞について」

- ・ (動詞) 否定辞のヴァリエーションが対象
- ・ 「-ン」 (ex. ミン “見ない”) の現れに注目
 - ・ 岸江 (1990: 47) : 「-ン」は衰退に向かっている (三重県中部方言)
 - ・ 鳥谷 (2015: 162) : 若年層で「-ン」の使用が多い (大阪・奈良)
 - ・ 南 (2013: 77) : 長い動詞形で「-ン」が出現しやすい (大阪)
- ・ 世代の違い / 動詞 (語幹の長さ) の違い / 接辞の有無による違い

事例紹介 (2) アンケート調査による研究

奥田恵 「三重県北部方言における否定辞について」

- ・ 「寝る」の否定（語幹が**短い**）
 - ・ 単純否定（寝ない） ・ 可能否定（寝られない） ・ 仮定（寝なければ） ・ 理由（寝なかったので） など
- ・ 「集める」の否定（語幹が**長い**）
 - ・ 単純否定（集めない） ・ 過去否定（集めなかった） など
- ・ 「頻繁に使う」「時々使う」「あまり使わない」「自分は使わないが、よく耳にする」「自分は使わないが、時々耳にする」「初めて聞いた」から選択

事例紹介 (2) アンケート調査による研究

奥田恵 「三重県北部方言における否定辞について」

- ・ **世代**の違い：「寝ない」「集めない」
 - ・ 若年層の約70%が「-ン」を使用, 老年層の約40%が「-ン」を使用
- ・ **動詞 (語幹の長さ)**の違い：「寝ない」と「集めない」の比較
 - ・ 「寝ない」：若年層の約60%, 老年層の約10%が「-ン」を使用
 - ・ 「集めない」：若年層の約80%, 老年層の約70%が「-ン」を使用

事例紹介 (2) アンケート調査による研究

奥田恵 「三重県北部方言における否定辞について」

- ・ **接辞の有無**による違い：「寝ない」（ネン）と「寝れない」（ネレン）と「寝れなかった」（ネレンカッタ）
- ・ 「寝ない」：若年層の約**60%**、**老年層の約10%**が「-ン」を使用
- ・ 「寝れない」：若年層の約**80%**、**老年層の約80%**が「-ン」を使用
- ・ 「寝れなかった」：若年層の約**80%**、**老年層の約80%**が「-ン」を使用

事例紹介 (2) アンケート調査による研究

奥田恵 「三重県北部方言における否定辞について」

- **接辞の有無**による違い：「寝れない」と「寝れなかった」
 - 「寝れない」
 - 若年層の約80%, **老年層の約80%**が「-ン」(ネレン)を使用
 - 若年層の約80%, **老年層の約100%**が「-ヤン」(ネレヤン)を使用
 - 「寝れなかった」
 - 若年層の約80%, **老年層の約80%**が「-ン」(ネレンカッタ)を使用
 - 若年層の約80%, **老年層の約70%**が「-ヤン」(ネレヤンカッタ)を使用

事例紹介 (2) アンケート調査による研究

奥田恵 「三重県北部方言における否定辞について」

- ・ 三重県北部方言における「-ン」の現れ
 - ・ 岸江 (1990: 47) : 「-ン」は衰退に向かっている (三重県中部方言)
 - ・ 鳥谷 (2015: 162) : 若年層で「-ン」の使用が多い (大阪・奈良)
 - ・ 若年層で「-ン」の使用が増加している
 - ・ 南 (2013: 77) : 長い動詞形で「-ン」が出現しやすい (大阪)
 - ・ 語幹が長い / 接辞があると「-ン」が出現しやすい

ここまでのまとめ

コロナ禍における方言調査の困難さ（他発表との重なりますが）

- ・ 対面調査もアンケート調査も、やはり平時よりは困難
 - ・ どちらの場合も、協力者がいらっしゃるか否かが大きな問題
 - cf. 田村さんの研究の場合と鈴木さんの研究の場合について
 - ・ 一方で、調査の頻度は、平時よりは高くなった
- ・ 擬似対面調査が、そのまま（完全に）対面調査に代わることは（おそらく）ない
 - ・ 協力者側の通信環境に対する依存
- ・ アンケート調査も、コロナ禍の影響を受ける
 - ・ 老年層に対するWebアンケート調査の困難さ

平子自身の研究について ついたり

- ・ 授業形態の変更への対応・校務などが重なり、調査研究は従来通りにいかず
 - ・ 成果公表、これまでの調査データ、文献資料データの整理
- ・ 次年度以降にオンライン調査を円滑に進められるように準備
 - ・ 愛知2方言（木曾川と新城）， 出雲2方言（木次と仁多）， その他
 - ・ オンライン調査を前提とした研究プロジェクト
 - ・ 話者との交流継続（オンライン調査の内諾はあり）
 - ・ 終息まで十全に調査できないことを前提とした研究計画

参考文献・謝辞など

- ・ 参考文献については、それぞれの卒業論文の文献一覧を参照してください
- ・ 困難な状況下で、研究プロジェクト（卒業論文研究）をやり遂げたゼミ生の皆さんに、心から敬意を表します
- ・ それぞれのゼミ生の調査研究に協力してくださった皆さんと、それぞれのゼミ生の研究にご助言を下された先生方に、感謝申し上げます